

(別紙2)

令和6年度離島漁業再生支援交付金漁業集落实績報告

令和7年5月15日

1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：鹿児島県

市町村名：和泊町

島名：沖永良部島

協定対象漁業集落名：えらぶ漁業集落

協定参加世帯数：74世帯（82人）

（うち漁業世帯数：29世帯（29人））

2. 協定締結の経緯

和泊町において、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、水産業・漁村における多面的機能も失われていく懸念があるため、地域漁業の活性化を図るとともに集落の漁業生産活動によって発揮される多面的機能が確保されることを目指して離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

【サメ駆除】

漁業被害の低減を図るため、サメ駆除を実施し、計161尾、1,916kg（300円/kg）を買い上げた。



②漁業の再生に関する実践的な取組状況

【鮮度保持】

既存の海水冷却装置の実証試験として、キハダ若魚を用いた従来の出荷方法（海水＋氷）と冷却海水による出荷方法（冷却海水＋氷）の2パターンで3日間静置しながら、水氷温度や魚体の表面温度等の計測を行った。

この試験により、冷却海水の活用による冷やし込み効果の持続性や、水氷に必要な氷の融解が抑えられることが示された。

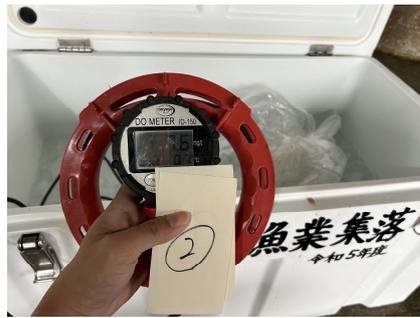


表 1 水氷温度及びシビ体表面温度の推移 (単位：℃)

日時	①水氷温度	②水氷温度	①体表面温度	②体表面温度
R6. 12. 18 (15 : 00)	3.2	0.2	—	—
R6. 12. 18 (18 : 00)	-0.3	-0.7	0.8	-0.6
R6. 12. 19 (9 : 00)	-0.1	-0.7	2.3	0.8
R6. 12. 20 (9 : 00)	0.0	-0.6	2.6	0.7

表 2 試験区ごとの氷の融解量及び水氷の塩分濃度

試験区	氷の融解量 (kg)	塩分濃度 (%)
①従来区	11.3	2.17
②比較区	6.1	2.61

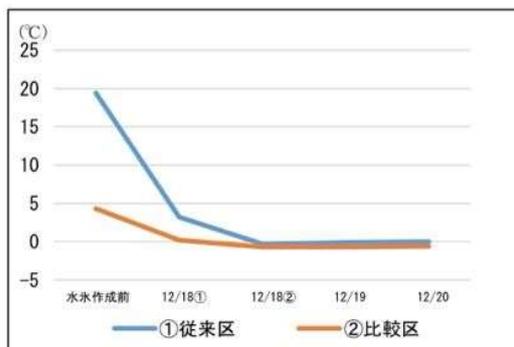


図 2 水氷温度の推移

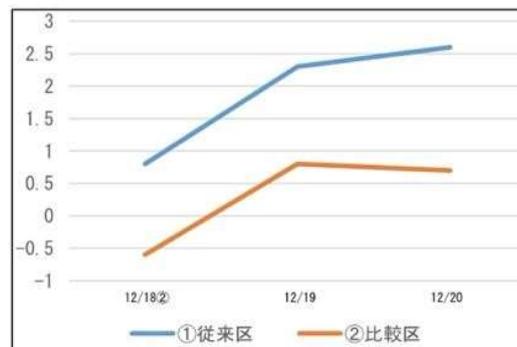


図 3 シビの体表面温度の推移

【魚食普及】

8月の和泊町港まつり、11月の和泊町農業祭において、サメフライ、マグロ及びソデイカの刺身用柵を販売した。



【海洋レジャーへの取組】

町内小学校の体験学習として、和泊小学校及び国頭小学校の5年生を対象に追い込み漁体験を実施。魚捌き体験及び調理を通して、伝統漁法の継承・魚食普及を図った。



【その他活動報告】

7月に与論町漁協の視察及び与論島漁業集落との意見交換会を行い、加工場の状況や水揚げされる水産物の流通体制、奄振事業等を活用した漁業者支援等についての知見が得られた。



4. 取組の成果

(記載例)

交付金交付対象漁業者所得平均 1,890千円 ※1

漁業集落漁業就業者数 29名 ※2

- ・サメ駆除については、昨年度に引き続きサメによる漁業被害の軽減が図られたほか、駆除されたサメを活用したフライ等の販売により、魚食普及に資する取り組みにもなった。
- ・冷却方法に関する実証試験では、冬季に行ったものの、従来の方法と比較して魚の冷却効果が向上する可能性が示唆されたため、夏季にも同様の試験を行った上でエビデンスを取得し、時期に合わせた冷やし込み等について検討していきたい。
- ・海洋レジャーへの取組では、和泊小及び国頭小の2校の5年生が参加し、伝統漁法である追い込み漁や魚さばき体験を実施し、島の水産物や漁業への興味関心を深められた。令和7年度からは、上記2校に加え、大城小及び内城小の2校が加わり、町内4つ全ての小学校が合同で開催することとなっているため、充実かつ安全なイベントとしていきたい。
- ・視察や活動報告会等における他漁業集落との情報共有により、集落の課題や取組内容を見直すきっかけとなった。